

# 第33回 能楽若手研究会 大阪公演

## 13時始め(正午開場)

### 観世流 能

左衛門の妻 西野 翠舟  
日下左衛門 笠田 祐樹

### 芦刈

妻の従者 喜多 雅人  
供人 中村 宜成  
里人 善竹 隆平

大鼓 山本 寿弥  
小鼓 成田 奏  
笛 齊藤 敦

梅若雄一郎 山田 薫

上田 顕崇

山本 麗晃 寺澤 幸祐

上田 貴弘

上野 雄介 浅井 文義

上野 朝彦 山中 雅志

### 大蔵流 狂言

### 魚説経

出家 善竹 忠亮

施主 小西 玲央

後見 善竹 隆司

休憩二十分

### 金春流 能

帝釈天 金春 嘉織  
山伏 天狗 金春 飛翔

### 大会

比叡山の僧正 矢野 昌平

大鼓 森山 泰幸 太鼓 中田 一葉  
小鼓 荒木 建作 笛 貞光 智宣

木葉天狗 小笠原 由祠

酒井 賢一

後見 金春 穂高

地謡

雨宮 悠大 中村 昌弘

中田 能光 佐藤 俊之

田中 直樹 山井 綱雄

岩間啓一郎 吉川 恵宥

附祝言

### 観世流 能「芦刈」

本曲は、「大和物語」を題材にした作品です。  
摂津の国、日下左衛門夫妻は貧困の為に離別し、  
女(ツレ)は都で貴人の乳母になります。  
三年後、女は相当の生活が出来るようになった方  
元夫・日下左衛門は行方不明に。女は元夫の消息を  
知ろうと、従者(ワキ)を伴って難波へ行くところか  
ら能「芦刈」は始まります。

里人(アイ)の勧めで二行は浜市に行き、芦を売る  
男(シテ)と出会います。男は、有名な和歌を織り込  
んだ面白い謡を謡いながら舞を見せます。

女はその男に芦を一本所望するのですが、実はそ  
の男こそ日下左衛門なのでした。彼は元妻の存在  
に気付き、今の落ちぶれた身を恥じて、隠れてしま  
います。言葉をかける女。二人は歌を交わし合い、互  
いに気持ちを確認し、再会を祝って舞い、夫婦とも  
都へ帰って行きました。

和歌をふんだんに取り入れた芸尽しな能です。  
\*芸達者\*なシテを演じたく思います。

笠田祐樹

### 大蔵流 狂言「魚説経」

殺生に飽きて出家した漁師(シテ)は、まだ経も読  
めず、説経もできないまま西国見物を済ませ、見物と  
入門を兼ねて都へ向かいます。

そこへ来合わせたのは、持仏堂の世話と法事をし  
てくれる僧侶を求人に来た信心深い男(アド)。早速  
話がまとまり、男は出家を連れて帰り、早速説法を  
所望します。困り果てた出家は、前職の魚の名前を  
言い並べてその場を切り抜けようと思いますが…。

大寺、大家の師匠の元に入門して下働きから養成  
してほしかった出家と、一人前の僧侶を求めている男  
の行き違いが生む悲喜劇です。

眼目はやはり説法です。開式の文句から回向文に  
至るまで巧みに魚の名前が組み込まれています。何  
種類の魚が登場するか、おわかりになりますか？

善竹忠亮

### 金春流 能「大会」

比叡山で修行していた僧(ワキ)のところに、一人  
の山伏(前シテ)が訪れます。

その山伏は以前、鷹に化けていたときに、京童た  
ちに捕らえられ、殺されかけていたところを助けら  
れた天狗であると名乗ります。山伏は命を助けられ  
た礼に、望みを何でも叶えると言います。

そこで僧は、釈迦が法華経を説いた時の様子を再  
現してほしいと懇願します。山伏は引き受けます。  
ただし「それを見ても絶対に信仰心を持ってはいけ  
ない！」と念押しして消え失せます。(中入)そこに  
木葉天狗(アイ)が現れ、以前天狗が助けてもらった  
ときの話を語ります。

その後、釈迦に変装した天狗(後シテ)が現れ僧  
の前で説法を始めます。しかし僧はその莊嚴な雰囲気  
から、天狗との約束を忘れてしまい、信仰心を起  
こしてしまいます。すると帝釈天ツシシが出現し僧  
を騙したとして天狗を懲らしめます。そして天狗は  
心からになって逃げ帰っていくのでした。

この能の見どころは、後半の説法を行っているこ  
ろから帝釈天にばれて懲らしめられるところにか  
けて、とくに天狗と帝釈天が相対するところは迫力  
満点です。

シテ(天狗)は恩返しをするつもりだったのに、か  
えて罰を受けてしまうというなんともかわいそう  
な役柄ではあるのですが、案外憎めない奴と思って  
見ていただければ幸いです。

金春飛翔

【十六時半頃 終了予定】